

教育実践総合センター平成 28 年度活動概要

1. 構成員

藤村友大 (広島大学大学院)
栗原慎二 (広島大学)

センター長 (併任)

教授 岡 直樹

センター担当教員

《学校教育相談実践部門》

教授 岡 直樹 (併任)

教授 栗原 慎二 (併任)

《教育実践研究開発部門》

准教授 (実務家教員) 西本正頼 (併任)

准教授 (実務家教員) 大里 剛 (併任)

事務補佐員

竹ノ中亜由美

非常勤相談員

教育臨床相談 エリクソン ユキコ, 山崎 茜

学習相談 中村 涼

センターの概要

二つの部門を設置し、学校や教育委員会等の教育・行政機関や地域と連携を図りながら次のような活動を行っています。

教育実践研究開発部門では、高い専門性と優れた指導力を持つ教員を養成するための教育事業や研究・カリキュラム開発を行うとともに、学校の実践研究に対するコンサルテーションも行っています。学校教育相談実践部門では、現在の学校教育が抱える問題を解決・予防するための研究や、相談・支援活動を行っています。平成 18 年度から学校心理教育相談室 (にこにこルーム) を設置し、学習や生徒指導・研究相談にかかわる心理教育的支援、学校心理学に関する教育・研究を行うとともに、学校心理学に関する研修の機会を提供しています。

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

(1) 子どもの心と学び支援セミナー

① 「国内・海外の実践に学ぶ」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 28 年 5 月 21 日 (土)

場所：比治山大学 6 号館

講師：松山康成 (寝屋川市立公立小学校)

真田穰人 (大阪市立公立小学校)

鶴川春菜 (広島大学大学院)

② 「ちゃんとできてますか? 『合理的配慮』」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 28 年 7 月 2 日 (土)

場所：比治山大学

講師：バーズ 亀山 静子 (ニューヨーク市公認スクールサイコロジスト)

③ 「面接の達人になる! PartII」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 28 年 9 月 18 日・19 日 (日・月)

場所：女鹿平温泉クヴェーレ吉和ロッジ観山荘

講師：栗原慎二 (広島大学)

④ 「日本学校教育相談学会・中四国ブロック大会および広島子どものこころ支援ネットワーク第 36 回定例会」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 28 年 11 月 26 日 (土)

場所：広島大学東千田キャンパス未来創生センター M401 教室

講師：石井眞治 (比治山大学・広島大学・元広島市教育長)

栗原慎二 (広島大学)

研究報告：富保直子 (尾道市公立学校)

山崎茜 (広島大学・広島市公立学校スクールカウンセラー)

実践報告：西浪總郎 (総社市立総社西中学校)

⑤ 「認知カウンセリングの理論と実際」

対象：教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 29 年 1 月 11 日 (水)

場所：広島大学教育学部 第三・四会議室

講師：植阪 友理 (東京大学)

⑥ 「対応に悩むケースの理解と対応のコツ」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 29 年 1 月 14 日 (土)

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザギャラリー B

講師：エリクソン ユキコ (広島大学・公益社団法人学校教育開発研究所)

事例発表：原範幸（高梁市立高梁中学校校長）
中村愛理（鈴鹿市立清和小学校）
井上利也（広島市立公立中学校）

⑦ 「学級経営のこつ～経験が浅くても落ち着いた思いやりのある学級を作れます～」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生
期日：平成 29 年 3 月 25 日（土）
場所：比治山大学 6 号館
講師：栗原慎二（広島大学）

(2) 教員養成講座

「教育現場に巣立つ皆様へ～教員生活のスタートを充実させるために～」

対象：教職志望の大学生・大学院生
期日：平成 29 年 2 月 16 日（木）
場所：広島大学教育学部 L304-1
講師：大里 剛（広島大学〔実務家教員〕）

3. 研究活動状況

(1) センタープロジェクト研究

- ① 岡山県総社市との協力に基づく共同研究
「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革の研究」
- ② 平成 28 年度教育学研究科共同研究プロジェクト
「子どもの心と学び支援を通じた学生同士の交流が教員としての専門性の発展にもたらす効果の検討」

4. 教育・社会貢献事業

(1) にこにこルーム（学校心理教育支援室）

《学習相談》

にこにこルームの学習相談に参加した学生は 59 名。

① 前期（2016 年 5 月 11 日から 2016 年 8 月 3 日）

東広島市内の小学校 13 校から 4 年生以上の児童 16 名を抽選で選び，5 月 11 日から 8 月 3 日までの計 9 回，毎週水曜日 17 時 30 分から 19 時 20 分までの 110 分，認知カウンセリングとレクリエーションのセッションを行い，終了後，毎回ケース検討会を行った。また，抽選で選んだ児童とは別に，6 名の児童・生徒に対して毎週水曜日 18 時 45 分から 19 時 45 分までの 60 分間，5 名の児童・生徒に対して毎週火曜日 18 時 30 分から 19 時 30 分までの 60 分間の個

別認知カウンセリングを行った。

② 後期（2016 年 10 月 19 日から 2017 年 2 月 8 日）

東広島市内の小学校 13 校から 4 年生以上の児童 14 名を抽選で選び，10 月 19 日から 2 月 8 日までの計 12 回，毎週水曜日 17 時 30 分から 19 時 20 分までの 110 分，認知カウンセリングとレクリエーションのセッションを行い，終了後，毎回ケース検討会を行った。また，抽選で選んだ児童とは別に，7 名の児童・生徒に対して毎週水曜日 18 時 45 分から 19 時 45 分までの 60 分間，4 名の児童・生徒に対して毎週火曜日 18 時 30 分から 19 時 30 分までの 60 分間の個別認知カウンセリングを行った。

③ 夏休み

2016 年 7 月 30 日から 8 月 2 日の 4 日間，1 回 60 分，前期の学習相談に参加した小学生 23 名に認知カウンセリング（サマー・セッション）を行った。2016 年 7 月 30・31 日の 2 日間，サマー・スクールを実施した。参加者は小学 5 年生を対象として公募し，7 名に算数，学習の仕方に関わる授業を行った。

④ その他の活動

2016 年 10 月から 2017 年 1 月の間に，9 名の学生が広島市内の公立高校にて学習支援を行った（延べ 21 回）。2016 年 4 月から 2017 年 2 月，毎週水曜日又は金曜日に 14 名の学生が東広島市内の公立小学校にて学習支援を行った。2016 年 5 月 8 日，安芸高田市内で行われた農業体験活動（キャンプ）に学生ボランティアとして 2 名の学生が参加した。

にこにこ広島ルームでは，にこにこルーム個別学習相談窓口にて受け付けた小学生・中学生の児童・生徒 3 名に対して，国語・算数・英語の認知カウンセリングを 30-60 分行った（延べ 13 回）。教科・時間についてはそれぞれの相談のニーズにあわせて決定した。

《学校臨床相談》

一年間を通じて臨床心理士と大学院生の学生支援員による学校臨床相談活動を実施した。1 回の面接は 50 分で，原則 10 回～15 回を上限とした回数限定でカウンセリングやソーシャル・スキル・トレーニング（以下 SST）等を行った。学生支援員が担当するケースの判別は臨床心理士が行い，インテーク面接の実施後，学生が児童生徒の面接を担当した。

- ① にこにこ広島ルーム臨床相談（毎週日曜日）
広島ルームでの支援員は1名。

広島大学東千田キャンパス内の相談室において、毎週日曜日（10:00～17:30）に完全予約制で相談活動を行った。来談件数は15件で、延べ相談件数は61回。来談のケースは小学校2年生～高校2年生。不登校及び不登校傾向、発達障害、進路への不安、子育て不安などに関する相談等が中心であった。

- ② にこにこ東広島ルーム臨床相談（毎週土曜日）
東広島ルームの支援員は4名。

広島大学キャンパス内の相談室において、毎週土曜日（10:00～17:30）に完全予約制で相談活動を行った。来談件数は10件で、延べ相談件数は14回。来談のケースは小学校2年生～4年生。不登校及び不登校傾向、発達障害、子育て不安、その他精神症状に関する相談であった。また、現職教員を対象に困難な事例に対するコンサルテーションが1件あった。

- ③ 定期ケース検討会（木曜日 18:00～20:30）

前期・後期共に定期ケース検討会を実施した。参加学生は事前登録した33名で、臨床心理士及び学生支援員の担当するケースの事例検討会を行った。また、学級経営、児童・生徒のアセスメント、カウンセリング基本技法、SST技法等の勉強会を実施した。（延べ24回）

- ④ 学校ボランティア実習

東広島市内の小・中学校、広島市内の情緒障害児短期治療施設、広島市生活困窮世帯学習支援事業等においてボランティア実習（最低5回以上）を実施。学生は実習後に毎回レポートを提出し、教員3名にフィードバックを行った。

《学習相談・学校臨床相談合同の活動》

集団ソーシャル・スキル・トレーニング&学習
カウンセリング

地域の児童・生徒を対象に2016年10月27日から2017年1月19日まで計5回、集団SSTと認知カウンセリングを行った。参加者は対人関係の苦手な子どもや発達障害の傾向のある児童・生徒。前半・後半の2グループ（各小学校4～6年生8名、計16名）に分かれ、SSTは学校臨床相談の学生（大学院生5名と学部生22名）が担当し、認知カウンセリングは学習相談担当の学生12名が担当し教員の指導のもと実施した。

- (2) 学校コンサルテーション活動

概要：学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年（50回）

対象：教員および保護者等

人数：延べ約120名

- (3) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員17名及び下見地区の地域の方等の学外委員10名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織。「地域教育実践Ⅰ・Ⅱ」の授業として通年で開講した。2016年6月から12月の間、6回の活動を行った。活動時間帯は、午前13時から午後5時（最終日のみ午前11時から午後5時）。参加学生は、計45名。児童は東広島市立小学校から募集した73名。児童8～9名と学4～5名で1班とし、9班を編成、「サイエンス」、「オリンピック」、「畑名人」の各3班の3グループでグループ活動や畑での栽培活動などを行った。